

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎



明報恩感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 http://www.higurashi.net/ 第0042号  
護國青年會議 http://www.gokoku.net/ 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成19年10月30日

# 金大中事件と在日外国人参政権

日本の主権を侵した事件は今から三十四年前の八月八日に起きた。来日中の金大中が何者かの手によってホテルから拉致され、五日後に韓国の自宅前で発見されたという「金大中事件」である。事件が明るみになるまでは、金大中が日本に入国していることすら知る者は殆どいなかった。事件が何故起きたのか、金大中が日本側の警備を断つた為と理由付けがされていたが、KCIAが日本の警察と共謀して誘拐したとの風聞もまことしやかに流された。今も昔も変わらない左翼メディアは何故防げなかったのか、と警察批判を繰り返したが、密入国に等しい奴をどうやって警備するというのだろうか。



解放された金大中

時は流れて本年十月二十六日、韓国の情報機関・国家情報院の真実究明委員会は、金大中事件に同院の前進であるKCIAが関与していたことを認めたとうえで記者会見をした。日本への主権侵害に対して韓国政府としての謝罪を求める声が出ていることについて、安委員長は「日本は韓国

政府の関与を知りながら政治決着した。今になって謝罪を求めると日本政府の態度は遺憾に思う」と批判した。韓国側の言い草は我田引水に過ぎないが、これに対する日本政府の対応はどうか、まるで他人事のように知らぬ顔の半兵衛を決め込んでいる。日本という国はどこまでお人よしでバ力なのだろうか、朝鮮人が我が国の主権を侵したと認めているのに対岸の火事と捉えている。本来ならば福田ボン助内閣総理大臣閣下が公式に謝罪を要求するべきなのに、この体たらくでは国家としての矜持が保てる訳がない。



福田康夫首相

韓政府が金大中事件に当時のKCIAが主導的に関与していたことを認めたことについて、福田首相は「事件は日本に対する侵害で、誠に遺憾だ」と一応不満の表情を見せたが、その一方では「我が党の力だけでは及ばないところがある。公明党とも一緒になつて、野党とも話し合いをしていく、今はその必要がある」とコンニャクのように軟弱なことを言っている。朝鮮人が息をするように嘘をつくということは世界の常識だが平然と人を騙し、それがばれなくても謝らない、それどころかその嘘を指摘されると、泣くの喚くの挙句の果ては暴言を吐いて開き直るのが朝鮮人の常套手段である。ところが信じられないことに、このキジルと共に参政権を与えようとする奴等が、再び蠢きだしたのである。

俺たちにも日本の政治への選挙権をよこせという在日朝鮮人の陳情団を、民主党、社民党、共産党、果ては公明党の議員までもが、恥も外聞もなく襷を掛けて拍手で出迎えているのだ。役立たずのクズの集まりとは言え、日本国の国会議員であり、日本国民の信託を得て議員バツジを付けている連中が、在日キジルシ朝鮮人に参政権を与えようとは常軌を逸しているとしたか思



在日朝鮮人を拍手で迎える売国奴

えない。仮に支那人が大量に移民してきたら小さな市町村は簡単に乗っ取られてしまう。在日朝鮮人が特定の町に集結したら、日本の中に「朝鮮」ができてしまう。入学式や卒業式では支那の国旗が掲げられ、韓国の国歌が歌われることになる。そしてそれは何れ国政にも影響を与えることとなり、日本が日本でなくなる恐れが生じてくる。そういう危険のある在日外国人参政権に賛同する議員は、日本国民に対する背信行為をしているということになる。日本国民の信託を受けながら、朝鮮人の日本破壊活動に手を貸す売国政治家を許しておく訳にはいかない、間近に迫った総選挙でこの売国政治家の政治生命を絶たなければ、日本の明日はやって来ない。

編集人・戸出蒼流



「日刊ひぐらし」は  
日本国旗を汎用し  
世界に冠たる国家の構築と民族の育成に邁進します。

「日刊ひぐらし」は  
国を愛し誇りに思う心と  
祖先を敬い大切に作る心の涵養に努めます。

# 白い恋人、赤福、比内地鶏、相次ぐ偽装発覚

北海道を代表する土産物に「まりもっこり」という商品がある。阿寒湖に棲息する特別天然記念物のまりもをキャラクター化したもので、擬人化したまりもの股間がもっこりしているところから名付けられたそう。業績低迷に喘ぐ問屋の主人が、三度の飯より好きなパチンコに興じていた時、ふと思いついて商品化したのがサツパリ売れなかつたところが世の中、何が幸いするか分からない。二〇〇六年



まりもっこり

のトリノ五輪の時にフィギュアスケートの安藤美姫が携帯ストラップとして使用している様子がテレビを通して茶の間に流れたことから人気に火が付き、爆発的なヒット商品となり現在に至っている。賞味期限を一ヶ月も先延ばししていた石屋製菓の「白い恋人」も「まりもっこり」と同じ様なことが言える。札幌五輪スキージャンプの日の丸飛行隊の興奮冷めやらぬ頃、営業から帰った社員の「白い恋人たちが降ってきたよ」という何気ないひと言がヒントになり、北海道限定品として



白い恋人

販売したところ、如何にも北海道を連想させるネーミングと相俟って大ヒット商品となった。その石屋製菓が本年八月、賞味期限を一ヶ月延ばして販売していたことが発覚し本社工場は操業停止を余儀なくされた。相前後してアイスクリームからは大腸菌が、パームクーヘンからは黄色ブドウ球菌が検出された。雪印やミートホープに続く北海道の食品メーカーの不祥事は北海道ブランドのイメージと信用を著しく損ねた。



赤福

白の次にやらかしたのは赤だ

った。「赤福餅」は創業三百年を誇る和菓子メーカー「株式会社赤福」の代表的な商品だ。宝永四年（一七〇七年）伊勢神宮の五十鈴川のほとりで売り出されたのが始まりと言われる日本を代表する銘菓である「赤福餅」にも偽装があったとは・・・消費者はいったい何を信じたら良いのだろうか。赤福は石屋製菓よりも更に悪質であった。

農水省によると、赤福は出荷の際、余った餅を冷凍保存して、解凍した日を製造年月日と偽って出荷していた。赤福は解凍して再包装することを「まき直し」と称し、会社ぐるみで偽装工作をしていたのである。偽装品の出荷量は過去三年間で六百万箱以上に上り、実に総出荷量の約十八%以上になるというから驚きというが呆れた数量である。

何百年も続いた老舗の歴史と信頼を一瞬のうちに失った赤福の会長とその息子の社長がテレビカメラの前で頭を下げ謝罪する姿を見て、子供達はどう思うのだろうか。大人の大人が無様な姿を晒し、子供達にどう説明すればよいのだろうか。もうこれ以上日本を汚さないで欲しい、もうこれ以上伊勢神宮を汚さないで欲しい。

北海道から三重県へと南下

した汚染食品前線は再び北上を始めた。



比内地鶏

秋田県大館市の食肉加工会社の「比内地鶏」は地元特産の「比内地鶏」と称して全く別の鶏肉や卵を燻製にした商品を販売していたことが明らかになった。

同社が比内地鶏と偽って出荷していた商品は計十五種類にも上ることが分かった。また比内地鶏の生肉の賞味期限を改竄していたことも判明した。これらが食品衛生法や農林規格法（JAS）に違反するのはもちろんだが、消費者を欺き、冒涇する詐欺行為だと言っても過言ではない。比内地鶏はニセモノの比内地鶏をホンモノと偽って小生に食わした疑いがある（今月半ばに秋田県角館市で比内地鶏とキリタンポを食べたが、今思うと疑わしい節がある）これは善良な日本人に対する裏切り行為である。我々は社会の一員として地域社会に貢献するよう努めなければならない。企業として同様である。支那人や朝鮮人のやり方を踏襲するような企業は日本にはいらぬ、腐った企業は日本から出て行くが良い。

編集人・戸出蒼流